

1. 単元名 「ごんぎつね」 新美 南吉

2. 目標
- 物語「ごんぎつね」を「ごんのかawaiiそうなところ」や「兵十のことを思っているところ」という視点から丸ごと読みをすることを通して、ひたすらに相手に心を伝えようとするすばらしさや、難しさについて考えることができる。
 - 「かawaiiそうなところ」や「兵十のことを思っているところ」を文中から見つけ、それぞれの中で質のちがいを比べながら読むことができる。
 - 一人読みをしたことを元に、グループ読みや仲間読みをすることによって、互いの考えの相違点や共通点を話し合い、読みを深めることができる。

3. 指導上の立場

○教材観

ひとりぼっちの寂しさ故にいたずらを重ねるごんが、兵十のおっかあの死を機に、いたずらを悔い、償いを通してひたむきに心の交流を求めたが、死をもってしか二人の気持ちが通じ合うことはできなかったという悲しい物語である。

ごんは全く孤立し、疎外された状況に生きている。そのごんが同じ孤独な境遇の兵十に共感を覚え、一種の仲間意識を感じて兵十を喜ばそうと償いの行為を始めた。ひたむきさのあまり人間に接近しすぎてしまったことがこの物語の悲劇を呼んでいる。

この物語はほとんどがごんの目線から書かれているので、児童はごんに同化しながら読み進め、ごんの言動からごん的心情の変化を読み取っていきやすいと思われる。

また、情景描写が色彩的にも、聴覚的にも優れた作品なので、音読などの時に読み味わってほしいと考える。

○児童の実態

削除しています。

○研究テーマとの関連

心を開き、思いや考えを言葉で伝え合う子どもの育成 ～国語科の学習を通して～

①発問の研究

丸ごと読みの学習の仲間読みでは、児童が課題に対して見つけた考えを発表し合う時間の占める割合が大きい。発表の言いっぱなしにならないよう、児童が見つけたことを広げたり深めたりできるような発問を準備したい。

そのために、授業の中で瞬時に児童の発言に対応する発問ができるように、十分な教材研究をしておきたい。主発問の他に、補助発問、揺さぶり発問等を準備しておきたい。

②学習形態についての研究

少人数学級ではあるが、クラス全体での話し合いでは自信がなく発表できにくい児童がいる。そこで、まず2～3人のグループ読みをさせたい。グループのリーダーの司会で課題について見つけたことを交流させる。ここでは全員が考えを伝え合うことができ、次の活動に自信を持てると考える。

グループ読みの後、全体読みをする。発表を伝えたり、聞いたりしやすいようにコの字型の席にする。集中して話し合いに参加できるように4種のハンドサインを使わせる。自分の考えと、友だちの考えを比べたりつなげたりしながら話し合える個や集団を育てたい。

○指導法の工夫

① 初発の感想を持たせる工夫

第1次で全文を範読する。その後で挿し絵を使ってあらすじを確認する。感想を出しやすいように、児童には全文ワークシートに心が動いたところにハートマークを書き込ませる。一番心が動いたところを決めて「○○は△△だな。」「○○は△△なのかな？」という書式で感想を書かせる。

この流れによって、ほとんどの児童が中心となる場面での感想を持ち、表現できると思われる。

② 丸ごと読みの課題をつかませる工夫

第1次1時に書いた感想を発表させ、誰についての感想が多いのかで焦点化させていく。色分けをしたり、ハートマークに大小をつけたりして発表をまとめた板書を概観させて丸ごと読みの課題をつかませたい。

一つは『ごんのかawaiiそうなところを考えよう』である。前半の“ひとりぼっちのごん”から、中盤以降の“償いを続けるが心が通じないごん”まで全文を通して児童は「ごんはかawaiiそうだ」という感想をもつだろう。

もう一つは『ごんが兵十のことを思っているところを考えよう』である。おっかあの葬式を見た後から、ごんの兵十に対する色々な償いが始まる。ごんの償いについて「かawaiiそう」とともに「やさしい」という感想も多くもつだろう。兵十に対する優しさは「兵十への思い」の一面という風に児童に分かりやすく伝え、広い意味で「ごんが兵十のことを思っているところ」という視点で読みの課題としてつかませたい。

③ 単元構成の工夫

3次に分けて、丸ごと読みの良さを生かせるように構成した。

1次では範読を聞いて感想を持たせる。児童の感想を元に課題作りをする。

2次では「ごんのかawaiiそうなところを考えよう」と「ごんが兵十のことを思っているところを考えよう」の二つの視点で丸ごと読みをさせる。どちらも丸ごと読みをしながら主題に迫っていける課題である。

3次では第6場面の精読をさせる。2次で確かめたことをさらに詳しく読み深めさせたい。第6場面を読みながら、丸ごと読みとして全文につなげていけるような展開にしたい。

4. 指導計画（全7時間）

	学 習 活 動	支 援 と 評 価
第1次 (2) 丸 ご と 読 み の 課 題 を つ か む。	第1時 物語のあらすじをつかみ 感想をもつ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">全文を読んで、あらすじをつかみ感想をもとう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○範読を聞き、その後で挿し絵を使って「誰がどうした」という話をさせていく中であらすじをつかむことができるようにする。 ○心が動いたところにハートマークをつけて自分の感想を持つことができるようにする。 ○「○○は△△だなあ」「○○は△△なのかな？」という短い感想を書くことができるようにする。 <p>※感想言葉カード提示</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">登場人物について感想を持つことができる。 (観察・ワークシート)</div>
	第2時 丸ごと読みの課題をつかむ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">心が動いたところを話し合おう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○「○○は△△だなあ」といった前時の感想を全員に発表させ、よく似た感想でいくつかのまとまりを作るようにする。 ○ハートマークを手がかりに、理由付けをしながら感想を発表できるようにさせる。 ○「ごんは兵十のことを思っていたのにわかってもらえなくてかawaiiそうだ」という感想に焦点化できる

		<p>ように話し合いの流れに気を付ける。</p> <p>○友達の発表を聞いて、考えが深まったところを書き加える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> 自分の感想を発表することができる (観察・発表) </div>
<p>第2次 (4) 課題に即して、語を丸ごと読みする。</p>	<p>第1時 「ごんのかawaiiそうなところ」を一人読みする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 「ごんのかawaiiそうなところ」について考えよう。 </div> <p>○ごんがかawaiiそうだと思うところにハートマークとサイドラインを引き、その理由を書き込むことによって自分の考えをもつことができるようにする。</p> <p>○書き込んだ物の中からベスト3を選ばせることによって、次時の学習の思考の準備となるようにさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> 「ごんのかawaiiそうなところ」を見つけ、書き込むことができる。(観察・ワークシート) </div>
	<p>第2時 「ごんのかawaiiそうなところ」を仲間読みする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 「ごんのかawaiiそうなところ」について考えよう。 </div> <p>○書き込みをもとに発表できるようにする。 (グループ読み→全体読み)</p> <p>○ある程度意見が出たら、「かawaiiそう」の大きさを考えさせることによって、「かawaiiそう」の質の違いについて気がつくようにさせる。</p> <p>○友達の発表から自分の読みを深めることができるように書き込みを加える時間を設けるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> 「ごんのかawaiiそうなところ」を理由を付けて発表したり、友達の考えを聞いたりすることができる。(観察・発表・ワークシート) </div>

	<p>第3時 「ごんが兵十のことを思っているところ」を一人読みする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「ごんが兵十のことを思っているところ」について考えよう。</p> </div> <p>○ごんが兵十のことを思っていると思うところに、ハートマークとサイドラインを引き、その時のごんの気持ちを書き込むことによって、自分の考えをもつことができるようにする。</p> <p>○書き込んだ物の中からベスト3を選ばせることによって、次時の学習の思考の準備となるようにさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「ごんが兵十を思っているところ」を見つけ、書き込むことができる。(観察・ワークシート)</p> </div>
	<p>第4時 「ごんが兵十を思っているところ」を仲間読みする。(本時)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「ごんが兵十を思っているところ」について考えよう。</p> </div> <p>○書き込みをもとに、発表できるようにする。 (グループ読み→全体読み)</p> <p>○ある程度意見が出たら、「兵十を思うごんの気持ちの変化」について話し合わせる。色々な出来事の中で、ごんの気持ちには起伏があり、気持ちが沈んだ後もなお兵十への思いの強さによって償いを続けていることに気がつくようにさせる。</p> <p>※ごんの気持ちの起伏を矢印で表させながら課題に取り組ませる。</p> <p>○友達の発表から自分の読みを深めることができるように書き込みを加える時間を設けるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「ごんが兵十を思っているところ」を理由を付けて発表したり、友達の考えを聞いたりすることができる。(観察・発表・ワークシート)</p> </div>
<p>第3次 (1)</p>	<p>第1時 「ごんと兵十の心は通じたといえるか」という課</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ごんと兵十の心は通じたのか考えよう。</p> </div>

第6場面を精読する。	<p>題について話し合う。</p> <p>○6場面のみ精読する。</p> <p>○ごんと兵十の言動にはどんな気持ちが込められているのかを、書き込みをしながら考えることで話し合えるようにさせる。</p> <p>○今まで学習したこととつなげながら読みを深めていけるようにする。</p> <p>○最後の一文が象徴していることを想像し話し合わせることによって主題に迫ることができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>ごんと兵十は死をもって心がやっと通じたという事について自分なりの考えを伝えることができる。</p> </div>
------------	---

5. 本時案 (第2次 第4時)

本時目標	各自が見つけた「ごんが兵十を思っているところ」について話し合う事を通して、兵十に心を寄せる思いの強さの変化に気付くことができる。	
学習活動	指導上の留意点	評価
<p>1. 課題を確認する。</p> <p>2. 仲間読みをする</p> <p>①グループで (5分間限定)</p> <p>②学級で</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「ごんが兵十を思っているところ」について考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2～3人のグループで前時に見つけた「兵十を思っているところ」を紹介し合わせる。 ・ 理由は省略し、各自ベスト3のみ伝える。 ・ 少人数のグループ内であれば、発言の苦手な児童も抵抗が少ないと思われる。 ・ 自分とちがう考え方に気づいたり、友達の考えを取り入れたりさせる。 ・ 見つけたところをベスト3で発表させる。 	
主発問①	ごんが兵十を思っていることがよく分かる文はどこ	

でしたか？その時のごんはどんな気持ちですか？

予想される発表

- 1 場面・・・川：なにをしてるのかな？
ほらあなの近く：びっくりした。こわかったなあ。つまらなくてよかった。
- 2 場面・・・六じぞうさんのかげ：誰が死んだか知りたい。
あなの中：おっかあが死んだのはわしのせいだ。しなけりゃよかった。
- 3 場面・・・物置の後ろ：おれと同じひとりぼっちだ。
いわし：まず、いいことをした。
くり：今日もいいことをした。
けが：かわいそうに。しなけりゃよかった。落ち込む。
次の日、その次の日、その次の日：よろこんでもらおう。ごめん。
- 4 場面・・・ついていく：兵十はどう思ってるのかな？
- 5 場面・・・しゃがんで待つ：話の続きを聞きたい。
かげぼうしをふみふみ：兵十がすき。話を良く聞きたい。
神様のしわざ：つまらない。ひきあわない。残念だな。
- 6 場面・・・くり：今日も持って行きたい。
ぐったりうなずく：分かってもらえて良かった。ごめんなさい。

主発問②

- ・出なかった場面は必要に応じて教師が促す。
- ・ハンドサインを使って、自分の立場をはっきりさせながら話し合いに参加させる。
- ・児童の発表のポイントになる言葉を全文にそって板書する。
- ・出来事を書いた短冊を板書に合わせて提示し、矢印マークを使いながら、ごんの思いの浮き沈みを確認できるようにする。

挙手できない児童には、段落番号を指定して書き込みをしていたところを意図的に指名発表させる。

ごんの気持ちが下がった後に上がっているところについて話し合いましょう。

- ・ごんの気持ちが下がった後にまた上がったところを児童と共に確認する。

補助発問と予想される発表

- Q1：あなのなかでかわいそうなくらいウナギの反省をしたごんが、ひとりぼっちの兵十を見て気持ちを上げたのはなぜでしょう。
- A1：自分がひとりぼっちでさみしいからなんとかしてあげたくなった。つぐないをしてあげたくなった。仲間のように思えてきた。

Q 2 : 兵十のきずをみてひどく落ち込んだごんが、また気持ちを上げていったのはなぜでしょう。

A 2 : 何かをぬすむのではなくて、本当にいいことをして兵十を喜ばせてあげたいと思って毎日ががんばった。

Q 3 : 神様の仕業だと思われてがっかりしたごんが、その明るく日にはまた気持ちをあげていったのはなぜでしょう。

A 3 : わかってもらえなくても兵十のために持っていきたい気持ちが強かった。兵十を喜ばせたかった。

	<ul style="list-style-type: none">・話し合いを通して矢印の長さや太さを書き加えて、視覚的にごんの気持ちを感じることができるようにする。・いたずらぎつねのごんが、おっかあの死から反省したり、共感したりして償いを続けているうちに、兵十への思いが以前より強くなっていったことに気付かせたい。	
3. まとめをする。	<ul style="list-style-type: none">・本時の学習でわかったことを短い文章でまとめさせ、全員に発表させる。・本時で考えが加わった部分を追加としてワークシートに書き込ませる。	ワークシートに感想を書く。
4. 次時の学習を知る。	<ul style="list-style-type: none">・ごんや兵十の思いが色々考えられる6場面を詳しく読むことを伝える。	

○本時の評価

A・・・兵十への思いの強さに気付いて、ごんの気持ちを発表したり、考えを深めたりすることができる。

B・・・兵十への思いに気付いて、ごんの気持ちを発表することができる。

C・・・兵十への思いを発表できない。

※C評価児童に対する支援：ワークシートの書き込みや、グループ読みでの様子を観察し、全体読みの時、意図的に指名する。